

# 常任委員会の審査から

## 農林水産委員会

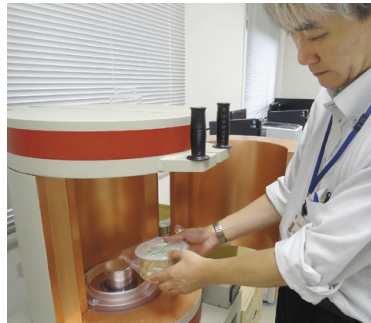
### 米の放射性物質検査結果の公表時期は市町村と連携し速やかな公表に努める

**問** 米の放射性物質検査は、国の基準で、出荷前に乾燥調製した玄米で実施するが、来年度以降、出荷前より早めの時期に検査し、消費者に早く安全性を知らせることは可能か。

**答** 検査は、実際に流通するもので実施するため、乾燥調製後となるが、早く検査して出荷したいという生産者の意向を尊重し、市町村と協力して、速やかな公表に努める。

**問** 森林資源をバイオマス発電などに利用しようとするとき、どのくらいの木材が確保できるのか。その可能量は。

**答** 本県の年間伐採量は三十万立方メートル、そのうち



新米の放射性物質検査

十二万立方メートルは山に残されていると推計している。今後、効率的な搬出が進んでいけば、供給量は高まっていくと考えている。

(ほかに、耕作放棄地を活用した耕畜連携※、風評被害対策なども質問)

## 総務企画委員会

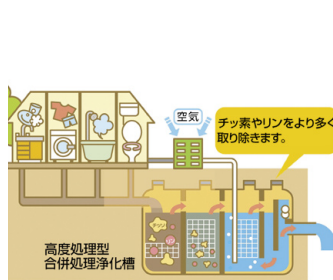
### 森林湖沼環境税活用事業の効果検証は期待される以上の効果を実現するため対策を検討していく

**問** 森林湖沼環境税活用事業について、森林整備は間伐の実施などにより効果が出ているが、水質改善があまり進んでいない霞ヶ浦の水質浄化対策については、あらゆる角度から検討すべき。

**答** 森林湖沼環境税は目的税的性格を有していることから期待される以上の効果を実現するため対策を検討していく。

**問** アンテナショップは都心の一等地に見合った販売戦略が必要である。収支を向上させるなど、新店舗での展開はどうするのか。

**答** 新店舗においては、生鮮品の取り扱いや調理設備、接客



森林湖沼環境税活用の促進を

などを改善し、より多くの人に県産品を見て、食べて、県の魅力を知っていただけるような運営に取り組んでまいりたい。

(ほかに、エネルギーの地産地消を考慮した新しいエネルギープランの策定、県債残高の縮減なども質問)

## 土木企業委員会

### 水戸北スマートICのフルインター化は実現に向け取り組んでいく

**問** 水戸北スマートICは災害時の緊急輸送道路の観点からもフルインター化は必要である。実現に向けた見通しは。

**答** 水戸市との協議、国・ネクスコ東日本との調整を進め、地元への効果や必要性などを十分打ち出した実施計画書の水戸市と作成するなど、フルインター化の実現に向け取り組んでいく。

**問** 利根川水系における取水制限の影響と対策は。

**答** 節水の協力もあり、使用量が比較的少ない状況であることと、他の浄水場からの送水量を通常よりも増量できる体制をとったことにより、現



フルインター化が望まれる水戸北スマートIC

状では深刻な影響は生じていない。今後は、浄水場間の連携強化のため、さらなる連絡管の整備も検討していく。

(ほかに、茨城港常陸那珂港区のポートセールスの推進、企業局における水処理技術の研究なども質問)

## 防災環境商工委員会

### 農商工連携の取り組み状況は産業大県創造基金による支援などを実施

**問** 県の豊富な農産物に付加価値を付けるため、県では農商工連携を進めているが、現在の取り組み状況はどうか。

**答** 産業大県創造基金の活用やマッチング会の開催などの支援を農林水産部と連携しながら行っており、最近では県産パブリカを使用したアイスクリームなどを開発した。

**問** 本県の文化芸術の拠点となる県民文化センター大ホールが九月一日に再開したが、秋に行われる県芸術祭の震災後の取り組み内容はどうか。

**答** 本年度の県芸術祭は、九月から来年一月にかけて県民文化センターを中心に開催さ



農商工連携の展示・交流会の様子

れ、美術、音楽、舞踊、芸能などが催される。同ホールが再開したことにより、昨年は中止となった各流日本舞踊会なども復活して行われる。

(ほかに、救急搬送の状況、工業技術センターによる支援の状況なども質問)

## 文教警察委員会

### 通学路危険箇所パトロールの時間帯は登下校の時間帯に実施する

**問** 通学路の緊急合同点検の結果、警察所管の危険箇所は六百六十箇所であった。このうち、信号機、横断歩道の設置及びパトロールの要望箇所数のほか、パトロールの時間帯はどうなっているのか。

**答** 危険箇所のうち、三百九十二箇所は信号機や横断歩道設置などの検討を要する箇所であり、そのほか二百六十八箇所は立哨またはパトロールなどで対応できる。パトロールは、登下校の時間帯に実施する。

**問** いじめの認知は難しく、担任に頼るところも大きい。今回の補正予算で教師のいじめ発見力を上げて欲しい。



安全対策が求められている通学路

**答** いじめ発見チェックリストを示したり、教師の経験の差を埋めるための研修などを行い、学校全体の発見力の向上を図っていく。

(ほかに、少年犯罪防止に向けた連携強化、不登校児童・生徒対策の推進なども質問)

## 保健福祉委員会

### 安定ヨウ素剤の配備の考え方は県の防災計画決定後に検討

**問** UPZ※内における医療活動のための資機材整備として安定ヨウ素剤の整備を行うとのことだが、今後どのように配備するのか。

**答** 原子力規制委員会による原子力災害対策指針が未策定のため、詳細はまだ示されていない。指針が策定され、県の防災計画が決まり次第、配備について検討していく。

**問** 平成十七年度のPET/CT※導入後、これまで約一万五千件の検査が行われてきた。今度の機器更新にあたり、その効果についての評価は。

**答** PET/CTの活用により詳細な診断が可能となるた



UPZに配備される安定ヨウ素剤

め、がんの判別、転移の有無などで威力を発揮し、治療に役立ってきた。今後も積極的に活用して県民への適切な医療の提供に取り組んでいく。

(ほかに、女性専門外来開設、サービス付高齢者向け住宅の住所特例適用なども質問)

ことば

※【UPZ】…環境モニタリングの結果などに基づき、避難、屋内待避などを準備する区域。おおむね30km。

※【PET/CT】…陽電子放出断層撮影(PET)とコンピュータ断層撮影(CT)が一体になった最先端の診断装置。がん診断に威力を発揮する。

※【耕畜連携】…米や野菜を生産する耕種農家へ畜産農家から堆肥を供給したり、逆に転作田などで飼料作物を生産し、畜産農家の家畜の飼料とするなど、耕種サイドと畜産サイドとの連携。